

**頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム
平成 27 年度採択事業にかかる事後評価結果**

整理番号	G2702
代表機関名	金沢大学
主担当研究者所属部局	環日本海域環境研究センター
関連研究分野	環境動態解析
主担当研究者	早川 和一
事業名	エアロゾルが引き起こす大気・海洋・生態系反応に関する国際研究拠点形成

I これまでの事業実施により得られた成果

(1) 人的交流を通じた国際研究ネットワークの構築・強化についての評価

評 点 3
コメント
<ul style="list-style-type: none"> ・計画していた 5 名の派遣に対し、最終的に 300 日以上派遣した者が 4 名（准教授 3 名＝327 日、314 日、350 日、助教 1 名＝328 日）となった。 ・計画していた 6 名の招へいに対し、最終的に 5 名の招へいとなった。 ・派遣計画は概ね達成していると言える。また、招へい計画は、年度ごとの計画（各年度 6 名ずつの招へい計画）で見た場合、招へい実績は 1 年度目と 2 年度目が 3 名、最終の 3 年度目が 5 名の招へいであり、若干計画通りでない点が残念であるが、全体として概ね達成していると言える。 ・国際シンポジウム、サマースクールの開催等について予定通り実施していること、また、エアロゾル長期観測データの国際比較研究にアジアを代表して参加したことなど所定の成果を上げたと言える。また、世界トップレベルの研究者と新たな国際共同研究を開始したことも評価できる。 ・発表された研究論文は、事業開始年度から事後評価年度までの 4 年度で 158 報と多く、そのうち 40 報以上が国際共同研究の成果であることは評価できる。しかしながら、共同研究の相手先である海外連携機関との共著論文が 5 報とまだ少なく、学会等での研究発表も 1 件と少ないことから、今後に期待したい。 ・なお、金沢大学が中核として進めてきたアジアエアロゾル研究の成果について取りまとめて国際学術誌の特集号として発刊する目標の達成状況についての言及がなく、当初の目標が確実に達成できたのか疑問が残る。 <p>以上のことから、期待される成果は概ね達成していると評価できる。</p>

(2) 国際共同研究課題についての評価

評 点 3
コメント
<ul style="list-style-type: none"> ・当初の研究目的及び到達目標の内容と達成状況の自己評価理由に示された研究成果の内容が対応していない。目標については、海外連携機関であるカリフォルニア工科大学、オークランド工科大学、ウィーン大学との連携による目標が掲げられているが、研究成果については、むしろ本事業の次の段階である東アジア域での中国、ロシア等との国際共同研究に重点が置かれた内容となっている。 ・海外連携機関であるカリフォルニア工科大学、オークランド工科大学、ウィーン大学との連携に

よる研究については、オークランド工科大学との共同研究の成果が散見されるだけで、他の2機関との共同研究成果が確認できない。

- ・本事業の中核である若手研究者の派遣や海外連携機関との共同研究による成果について十分に言及されていない点は残念である。
- ・なお、研究成果として挙げられている、多環芳香族炭化水素及びニトロ多環芳香族炭化水素に関する研究成果自体は、高く評価できるものである。

以上のことから、期待される成果は概ね達成していると評価できる。

II 今後の展望

評 点 4

コメント

・本事業の実施主体である金沢大学環日本海域環境研究センターが、本事業の成果を引き継ぎ、様々な国際共同研究を進展させている。また、若手研究者も育っていると見える。今後の国際研究ネットワークのハブ化に向けて発展することが期待できる。

以上のことから、今後の展望は高く評価できる。

総合的評価

評 点 3

コメント

・国際シンポジウム、サマースクールの開催等を踏まえ、エアロゾル長期観測データの国際比較研究を実施していること、また、世界トップレベルの研究者と新たな国際共同研究を開始したことは高く評価できる。

・海外連携機関との共同研究成果について十分に言及されていない。また、海外連携機関との共著論文が少なく、研究発表も少ない点は残念であるが、発表された研究論文が数多くあること、そのうち40報以上が国際共同研究の成果であることは評価できる。

・本事業の実施主体である金沢大学環日本海域環境研究センターが、文部科学省共同利用・共同研究拠点として認定されるなど、本事業の採択前と採択後の努力、その結果としての将来性は高く評価できる。今後の国際研究ネットワークのハブ化に向けて更に発展することを期待したい。

以上のことから、総合的に概ね高く評価できる。

※評点に対する標語は下記の通り。

【I (1)、(2)】

4=十分達成している 3=概ね達成している 2=ある程度達成している 1=ほとんど達成していない

【II、総合的評価】

4=高く評価できる 3=概ね高く評価できる 2=ある程度評価できる 1=ほとんど評価できない